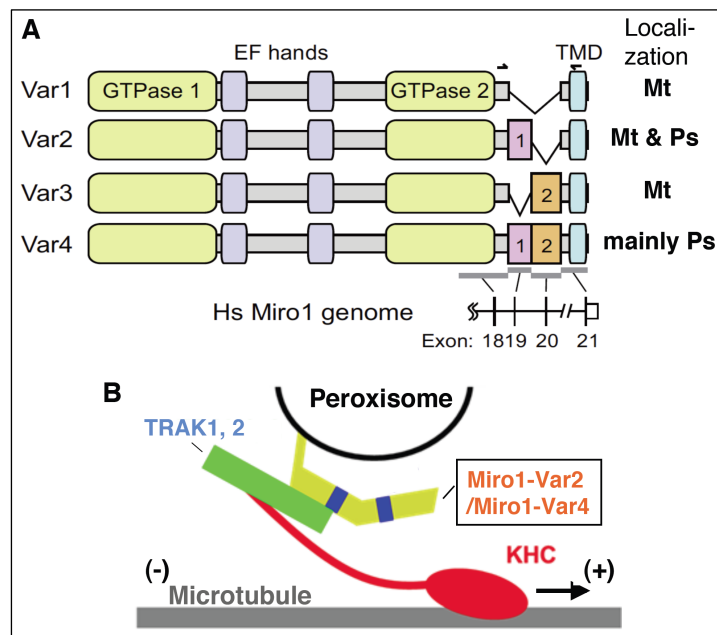


新規 Mitochondrial Rho GTPase-1 (Miro1) スプライシングバリエントによる
ペルオキシソームの細胞内長距離移動の発見

奥本寛治^{1,2}, 小野立晃¹, 外山隆介², 下村紋子¹, 永田愛子¹, 藤木幸夫³

(¹九大院・システム生命,²九大院・理,³九大・生医研)

ミトコンドリア外膜局在性テイルアンカー型タンパク質である Mitochondrial Rho GTPase-1 (Miro1) に関して、私達は新たに、2種のペルオキシソーム局在型ヒト Miro1 スプライシングバリエント(Var2 & Var4)を同定した。これらは、Pex19p との結合領域を含む挿入配列に依存してペルオキシソームへ輸送され、これまで分子機構が未解明であった哺乳類ペルオキシソームの微小管依存的な細胞内長距離移動を担うことを発見した。



発表誌 : Okumoto, K., Ono, T., Toyama, R., Shimomura, A., Nagata, A., and Fujiki, Y.

New splicing variants of mitochondrial Rho GTPase-1 (Miro1) transport peroxisomes.

J. Cell Biol., 217, 619-633 (2018). doi: 10.1083/jcb.201708122.